

「竹、鉄と出会う」

取材のお願い

石川県立伝統産業工芸館では、企画展「竹、鉄と出会う」を下記の通り行います。鉄の作品と組み合わせる事で竹工芸の魅力を再発見して頂く事を意図した企画展です。ぜひ取材して頂けますようお願い致します。

- ◆ **タイトル：** 企画展「竹、鉄と出会う」
- ◆ **開催趣旨：** 昔から生活の中で使われる様々な道具や日用品を作る材料として利用されてきた竹だが、一方では竹工芸品として茶杓や花入れ等の茶道具も作られてきた。今回の企画展では、石川県の伝統的工芸品である竹工芸品を今までとは違うインテリアとしての切り口で取り上げ、その新たな魅力を提示する事を意図している。
- ◆ **企画展紹介：** 本企画展では、竹の作品を新たな視点から見てもらえるよう、竹工芸家・榎本千冬さんの作品を、伝統編模様など日本的な形状や考え方を取り入れたアートディレクター/デザイナーの浅野真一郎さんの鉄の作品と合わせて紹介する。竹と鉄の間にどのような化学変化が引き起こされるのか、また、鉄との組み合わせにより竹の新たな魅力がどのように引き出されるのかなど、それぞれの作品とともに、＜榎本さん×浅野さん＞のコラボ作品と合わせてご覧頂く。
- ◆ **会期：** 2014年9月6日（土）－11月3日（月）
- ◆ **会場：** 2F 第3展示室
- ◆ **展示品：** 21点

<出展者・榎本千冬さん コメント>

竹工芸の魅力ってなんだろう。

この頃よく竹工芸の魅力についてきかれます。しかし、自問してもなかなか答えが見つかりません。竹を始めて40年近くになります。これまで続けてこられたのは、取りも直さず竹工芸に魅力を感じていた事に他ならないはずなのですが。それなのに、此れぞとといった答えを見いだせないのは何故でしょうか？もともと有る日本人のDNAからくるものなのでしょうか、それとも魅力があまりにも多くて一言では言い表せないからでしょうか。今は一応、そういう事にしておきます。皆様はどう感じてくれるでしょうか、感じたままを教えていただけると嬉しいのですが・・・。

<出展者・浅野真一郎さん コメント>

それぞれ伝統工芸や象形文字など日本的な形状や考え方をモチーフに、自身のバックグラウンドであるグラフィックデザインの要素を取り入れた家具シリーズ「sen」。

榎本千冬さんの竹工芸作品とは、素材や見た目はまったく違うように思えますが、それぞれ2次元の線を3次元のカタチにしているなど、籠目模様など日本をモチーフにした「sen」とは共通していることも多く、一緒に展示していただくことでどのような相乗効果を得られるのかとても楽しみにしています。

また、光栄にも榎本さんとコラボレーションさせていただいた作品も2種展示させていただきます。こちらは今回のテーマである「竹、鉄と出会う」に沿って、竹工芸によるお盆やザルに鉄によるミニマル（最小）な要素を加えることで、現代のライフスタイルに合わせた新たな機能と味付けを施した作品となります。

ぜひ、「竹」と「鉄」の組み合わせの妙をご体感いただくとともに、「sen」のグラフィカルな線による形状や意味、ネガティブスペースとポジティブスペースの導きだす間、光によって創られる影などにも注目していただけたら幸いです。

<榎本千冬さんプロフィール>

- 1950 神奈川県相模原市生まれ
 - 1978 大分県別府高等職業訓練校竹工芸科修了
 - 1985 石川県立輪島漆芸技術研修所卒業
 - 1989 輪島漆芸技術研修所にて竹工芸人間国宝飯塚小玕齋氏の助手を務める
 - 1993 輪島漆芸技術研修所の講師となる
 - 2000 文化庁在外研修員として、ドイツにて柳工芸研修
 - 2001 ニューヨーク・ジャパンソサエティにて竹工芸の講演を行う
- 現在、作品制作のかたわら、石川県立輪島漆芸技術研修所にて講師を務めている。

<受賞歴>

- 1981 西部工芸展：大分県美術展入選
- 1985 日本伝統工芸展・伝統工芸木竹展入選
- 1989 '89年ジャパンコンペティション石川＝新世への塗・漆展入賞
- 1990 裏千家・淡交社主催 '90年明日への茶道美術公募展入賞
- 1993 石川の伝統工芸展県知事賞受賞
- 1999 ドイツ、バイエルン州政府金賞受賞
- 2013 世界工芸コンペティション・金沢 2013 入賞
- 2014 工芸都市高岡クラフトコンペティション 優秀賞

※ ビナコテーク・デア・モデルネ、ノイエ・ザムルク、ミュンヘンに作品が収蔵。

<浅野真一郎さんプロフィール>

アートディレクター/デザイナー、日本グラフィックデザイナー協会 正会員、
インターナショナルアソシエーションオブデザイナーズ (IAD) 会員
ソニーを始め大手メーカーのキービジュアルや広告・販促物の企画・制作に従事した後、
2012年 Shinn Asano Design 設立。同年、発表した日本の伝統工芸や象形文字などをモチーフに2次元の線を3次元のカタチにした家具シリーズ「sen」が海外でも注目を集める。グラフィックをベースに家具やプロダクトなど多岐に渡って活動している。今春、イトーキ社の国産木材を活用する取り組み「Econifa」より新作を発表。

<受賞歴>

2013 イタリアミラノ国際コンペティション A' Design Award 金賞受賞

<出展>

2014 イタリア ミラノフォーリサローネ

2014 ドイツ アンビエンテ

2013 デザイントーキョー プロトラボ

2013 インテリアライフスタイル

2013 イタリアミラノフォーリサローネ

2012 トーキョーデザイナーズウィーク

◆ 併催プログラム

本企画展の出展作家、榎本千冬さんが教えてくれるワークショップが開催されます。古来から様々な道具を作る素材として活用されてきた竹を使って、編に挑戦して頂きます。ぜひ、竹と向き合う楽しさを体感して下さい。

「竹工芸・烏帽子花籠に挑戦！」ワークショップ

日時： 9月13日（土）・14日（日）13：00－16：30

場所： 工芸館1F

講師： 榎本千冬さん

制作物： 烏帽子花籠（えぼしはなかご）、直径約14cm、高さ約18cm

定員： 5名

料金： ¥3,200

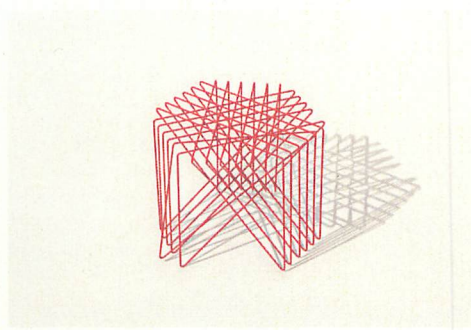
内容： 真竹を使って、四つ目編とそのバリエーションを用いて花籠を編みます。

参加： 12才以下の方は保護者の方と一緒にご参加下さい。

予約： 電話かメールにて事前にお申込み下さい。

TEL： 076-262-2020 / Eメール： info@ishikawa-densankan.jp

※ 10月にも榎本千冬さんによる竹工芸のワークショップが開催されます。日時等、詳細については追って工芸館HPでお知らせ致します。



問合せ及び取材申し込み先：

石川県立伝統産業工芸館 <http://www.ishikawa-densankan.jp/>

TEL： 076-262-2020

指定管理者ナカダ・クラフトプロジェクト

プログラム担当： 館長代理 柳井 篤子

携帯 090-3470-2469 E-mail： 707@nkndinc.co.jp